



○ ICFの参加の定義で、「そこにいる」ことも参加とみなす。積極的な社会参加ではないかもしれないが、いるだけで、影響を与える存在。それは参加である。「関係性」、「物語」、「生活史」そんなキーワードがありました。

○ ナラティブ(物語)アルバム。

生まれた時や小さい時の写真、奥さんとの出会い、工作中的写真、趣味のこと、読んできた本など、認知症になってから、倒れてから今までの介護生活まで。生活史を写真と資料と証言でつづっていく。

○ナラティブ(物語)シート。

利用者の日々の記録では、バイタルサイン、食事量、排せつ、皮膚トラブル等の医療的なものが中心になってきたが、それを補完するものとして、会話(本人がしゃべったこと)、ふるまい、家族の思いなどをそのまま日々の記録につづっていく。

○確かに、「やさしさ」「尊厳を大切に」「サービスの品質」と抽象的なことをいっても具体的な行動にはつながらない。本人の生活史を知っていくことで、知らないうちにケアの手つきが前より違っていたり、気づいてもそのままだったことが、行動に出たりする。訪問入浴の記録でも、ナースのだけでなく、ヘルパーが記録する部分があるが、そちらのほうが微妙なことが現場の空気が伝わったりする。